

188. 高齢者脳血管障害の脳シンチグラムと病理学的所見の比較検討

東京都養育院付属病院 核医学放射線部

阿部 正秀 川口新一郎 村田 啓
千葉 一夫 松井 謙吾 山田 英夫
飯尾 正宏

高齢者の脳血管障害の脳シンチグラムについて検討したので報告する。〔対象〕脳スキャンを施設した50歳以上540例中臨床脳血管障害と診断された218名である。この内、剖検手術により確認された例は97名であった。

〔方法〕使用した核種は $^{99m}\text{TcO}_4^-$ と ^{99m}Tc -pyrophosphateである。〔結果〕剖検手術で確認された97例中脳出血24病巣、脳硬塞48、くも膜下出血3、硬膜下出血11、その他9、合計96病巣(89例)と正常であった8例であった。シンチグラム上の診断率は陽性29例(30%)、不確定陽性例10例(10%)、陰性例57例(60%)で老人患者についても在来の結果と同程度のよい結果が認められた。特に硬膜下出血例では54%と高い診断率を示したが、くも膜下出血では6%であった。

出血の硬塞例の陽性率は30%と32%であり大差なく、スキャン所見に相違は認められず、シンチグラム上での鑑別は困難と思われた。病巣の大きさが1cm以下の場合、全く診断不能であり、それ以上の限局した病巣であれば診断率は著明に向上した。脳血管障害は病巣の局在とその時間的推移を見る事が重要であるが、今回4日以内に陽性像を呈したのはなく、1週間後より陽性像を呈した例が多かった。通常6~8週内で陽性像がなくなると言われているが、我々の例では5ヵ月頃まで持続する例が多く、中には280日もの長期にわたり陽性像を呈した例もあった。病巣濃度を0~4度に分類すると発病初期にGradeが高く、しかも消失速度が遅い程臨床症例の改善が不良で、初期にGradeが高くと病巣所見が速く消失する例は比較的前後は良かった。老人では脳血管障害様臨床所見におおわれた。脳腫瘍が3例、外傷の既往の無い硬膜下出血例が55%認められ、無症候性脳腫瘍の検出と共に硬膜下出血の発見に脳スキャンは有効であった。

189. 高解像力 scinti-camera の使用経験—特に brain scintigraphy—

放射線医学総合研究所 臨床研究部

国保 能彦 有水 昇
東京芝浦電機製作所玉川工場
熊野 信雄

東芝製 GCA 401型 gamma camera と ^{99m}Tc -DTPA を組合せて脳 scintigraphy を実施した結果、従来描出が不十分であった頭蓋骨内各部が明瞭に描出され、今後の使用に有効であるので報告する。

従来の gamma camera (GCA 201型) と同一症例において比較した結果以下のような結論を得た。その scintigram を供覧する。

1. 上矢状洞からS字状洞まで明瞭である。従って後頭蓋窩が明瞭である。同時に上矢状叢は皮膚又は骨又は帽状腱膜と区別される。
2. 中頭蓋窩が明瞭である。
3. ^{99m}Tc -RBC で副鼻腔が明瞭である。また、頸動静脈の区別が明瞭で、中程度の血管もシャープに描出される。
4. 後頭骨から大後頭骨まで明瞭である。